

わらびて



山田町クク井遺跡（縄文）の輝く块状耳飾り（けつじょうみみかざり）は、耳にあけた穴にこのまま通してピアスのように使ったそうです



透明感のある深いアンバー
カラーが美しい、野田村
上泉沢遺跡（縄文）の琥珀

たくさん発見がありました！

（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが
行った復興関連をはじめとする発掘調査では、貴重な
遺構や珍しい遺物などの発見が数多くありました。



不思議なデザインの大槌町赤浜 II 遺跡（縄文）
の土器は、どのように使われたのでしょうか？



黒と赤の配色が格好良い野田村上泉沢遺跡
（縄文）の石鎌（石の矢じり）

主な内容

- 平成 27 年度の成果
岩手県埋蔵文化財センター
- 平成 27 年度に注目された遺跡
- 特集
県沿岸部の古代製鉄について
- 平成 27 年度のイベント報告
夏休み体験教室
埋蔵文化財展
埋蔵文化財公開講座・
遺跡報告会



放射状に配置された石組みが珍しい、
山田町石崎 II 遺跡（縄文）の複式炉

【所報名について】 「わらびて」は蕨手刀（わらびてとう）に由来しています。 蕨手刀は、奈良～平安時代初期に使われた鉄製の刀で柄頭が早蕨（さわらび）の芽を巻いた状態に似ていることからこう呼ばれます。群集墳などから出土し、東北地方、特に岩手県で多く出土しています。

平成
27年度

公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの発掘調査

縄文時代から中世まで大きな成果

今年度は県内7市3町1村の36遺跡、発掘調査面積で約168,200m²の調査を実施しました。発掘調査の9割以上は、三陸沿岸道路建設や高台移転など東日本大震災復興関連の事業に伴うもので、調査した遺跡は縄文時代から中近世まで各時代にわたっています。

1 縄文時代の多彩な集落跡

宮古市の越田松長根I遺跡では、縄文前期初頭～前葉（約6,000年前）の集落跡が見つかりました。住居跡は残りも良く、この時期のムラの様子を知る貴重な成果が得られました。

山田町から宮古市にかけて、特に三陸沿岸道路関連の調査で、縄文中期の大規模な集落跡が次々に見つかりました。宮古市高根遺跡では、急峻な斜面に大型の貯蔵穴が階段状に連なり、住居の建て替えが繰り返されていました。山田町間木戸I遺跡でも、竪穴住居跡が幾重にも重なる状況で、3ヶ年の調査で250棟以上の竪穴住居跡が見つかりました。



宮古市高根遺跡の調査区北側にある尾根付近で、約170基ものプラスコ状土坑（貯蔵穴）が発見されました

2 縄文後期の祈りの場

昨年度、配石遺構が発見された洋野町西平内I遺跡では、内側の弧状に並ぶ石列と外側の配石遺構群の詳しい調査を行いました。お墓であることは確認できませんでしたが、配石遺構周辺でほぼ同じ時期の竪穴住居跡や掘立柱建物跡等が見つかりました。

3 燃失した住居跡から弥生土器

宮古市田老の乙部野II遺跡では、縄文時代後期の集落跡周辺から、弥生時代初めの竪穴住居跡が3棟見つかりました。火事で燃失した住居跡からは、完全な形の土器が多数出土し、この時期の様子を知る貴重な資料となりました。

4 北上川のほとりに200年続いたムラ

北上川中流沿い北上市中村遺跡で、昨年度に引き続き、奈良時代から平安前期にかけての集落跡が見つかりました。隣接の千苅遺跡と合わせ200棟以上の竪穴住居跡を確認したことになります。土器を焼いた遺構などもあり、200年間続いた拠点的な集落跡と考えられています。

5 謎の円形と方形の溝跡

野田村の中平遺跡は奈良～平安時代前期の集落跡です。竪穴住居跡群の周辺で、直径17mの円形の溝跡と一辺20mの方形の溝跡が発見されました。円形周溝・方形周溝と呼ばれる遺構ですが、古代集落の有力者のお墓の痕跡ではないかと考えられています。

6 奥州藤原氏と同じ時代の堀跡

宮古市田鎖車堂前遺跡では、平安時代前期の拠点的な集落跡と、平安時代末の堀跡等が見つかりました。堀跡は幅5m、深さ2mの規模の大きなもので、2つのコーナーが見つかりました。今年度の調査区から、中国産の白磁・青磁や常滑・渥美産の国産陶器等が出土しており、堀の内側を対象とする来年度の調査が期待されます。

7 室根山の麓の中世の城館跡

一関市室根の八幡沖遺跡では、2条の大規模な堀跡や堀切・切岸等が見つかり、遺跡とその周辺に中世の城館跡が所在することが明らかになりました。

平成 27 年度 埋蔵文化財センターの発掘調査遺跡一覧

通常調査	No	遺跡名	市町村	面積 (m ²)	調査期間	事業名	主な時代	調査成果
	1	中村	北上市	3,580	4/16 ~ 7/2	北上川中流域河川改修事業	古代	奈良～平安前期集落跡：竪穴住居 34、掘立柱建物 1、焼成遺構 19
	2	八幡沖	一関市	8,313	7/1 ~ 11/26	地域連携道路整備事業折壁地 区 室根川 1 号	縄文・中世	中世城館跡：堀跡 2、堀切 1、切岸 1、陥し穴 27
	計	2 遺跡		11,893				
復興関連調査	3	西平内 I	洋野町	2,250	4/20 ~ 10/2	三陸沿岸道路建設事業	縄文	配石遺構 46、列石 1、竪穴住居 5、竪穴状 1、掘立柱建物 5、集石 15、土器埋設遺構 3
	4	サンニヤ	洋野町	1,800	10/5 ~ 11/11	三陸沿岸道路建設事業	縄文	陥し穴 20
	5	北鹿糠	洋野町	5,300	10/1 ~ 11/11	三陸沿岸道路建設事業	縄文	陥し穴 5、土坑 5
	6	南鹿糠 I	洋野町	4,420	4/17 ~ 9/25	三陸沿岸道路建設事業	縄文	縄文前期集落跡：竪穴住居 2、陥し穴 5、土坑 3
	7	上のマッカ	洋野町	3,700	6/15 ~ 9/24	三陸沿岸道路建設事業	縄文	縄文前・中期集落跡：竪穴住居 3、竪穴状 1、土坑 25、焼土遺構 3
	8	中平	野田村	5,200	8/3 ~ 11/6	三陸沿岸道路建設事業	縄文・古代	奈良～平安前期集落跡：竪穴住居 12、円形周溝 1、方形周溝 1、陥し穴 50
	9	上泉沢	野田村	300	9/1 ~ 9/17	三陸沿岸道路建設事業	縄文	陥し穴 5
	10	重津部 I	宮古市	8,700	8/3 ~ 11/20	河川等災害復旧事業二級市道 沼の浜青の滝線 沼の浜地区	縄文	縄文前期集落跡：竪穴住居 7、竪穴状遺構 1、陥し穴 1、土坑 6
	11	乙部野 II	宮古市	4,494	8/3 ~ 12/18	三陸沿岸道路建設事業	縄文・弥生	縄文後期・弥生初頭集落跡：竪穴住居 55、竪穴状遺構 5、土坑 39、捨て場 1
	12	越田松長根 I	宮古市	4,830	4/8 ~ 7/30	宮古市新田平乙部線道路整備 事業	縄文・古代	縄文前期前葉の集落跡：竪穴住居 29、竪穴状遺構 1、土坑 8、陥し穴 2
	13	高根	宮古市	5,470	4/17 ~ 12/11	三陸沿岸道路建設事業	縄文	縄文中期集落跡：竪穴住居 32、プラスコ状土坑 280、遺物包含層 2
	14	山口駒込 I	宮古市	3,656	7/16 ~ 12/11	三陸沿岸道路建設事業	縄文・古代	縄文前～中期集落跡・平安前期集落跡：竪穴住居 47、炉跡 25、土坑 75、柱穴状土坑 133
	15	青猿 I	宮古市	11,000	4/20 ~ 11/26	三陸沿岸道路建設事業	縄文・古代	古代集落跡：竪穴住居 2、鉄生産工房 4、鍛冶炉 37、土坑 33、焼土遺構 5
	16	田鎖車堂前	宮古市	9,100	4/9 ~ 12/22	宮古西道路建設事業	縄文・古代・中世	古代集落跡・平安末居館跡：竪穴住居 34、竪穴建物 3、堀跡 2、土坑 24、遺物包含層 1
	17	田鎖	宮古市	4,830	4/9 ~ 6/30	宮古西道路建設事業	縄文・古代・中世	掘立柱建物 10、陥し穴 10、井戸 2、柱穴 652
	18	裏帶	宮古市	1,600	5/18 ~ 7/28	地域連携道路整備事業一般国 道 340 号和井内工区	縄文・中世・近世	縄文中期集落跡：竪穴住居 27、土坑 41、竪穴建物 4、柱穴 767
	19	千鶴 IV	宮古市	8,400	4/9 ~ 7/30	地域連携道路整備事業主要地 方道重茂半島線	縄文・古代	縄文中期・古代集落跡：竪穴住居 8、土坑 15、焼土遺構 6
	20	根井沢穴田 IV	宮古市	600	4/16 ~ 5/15	三陸沿岸道路建設事業	古代～中世	古代～中世：製鉄炉 4
	21	荷竹日影 II	宮古市	2,100	5/18 ~ 7/10	三陸沿岸道路建設事業	縄文	古代集落跡：竪穴住居 9、鍛冶炉 1、炭窯 2
	22	荷竹日向 I	宮古市	3,100	4/16 ~ 5/15	三陸沿岸道路建設事業	縄文・古代	縄文・古代集落跡：竪穴住居 11、陥し穴 4、土坑 1
	23	赤前 III	宮古市	2,670	8/3 ~ 11/26	市道赤前上下線道路整備事業	縄文・古代・近世	縄文中期集落跡・平安前期集落跡：竪穴住居 2、土坑 7、柱穴 6、近世墓壙 75
	24	石峠 II	山田町	3,598	4/17 ~ 8/4	三陸沿岸道路建設事業	平安・中世	縄文中期集落跡：竪穴住居 62、竪穴状遺構 3、土坑 79、鉄生産炉 2
	25	間木戸 I	山田町	2,140	4/17 ~ 8/7	三陸沿岸道路建設事業	縄文・古代	縄文中期・古代集落跡：竪穴住居 103、土坑 117、鉄生産炉 1、埋設土器 4
	26	房の沢 IV	山田町	2,370	7/21 ~ 10/9	三陸沿岸道路建設事業	縄文・古代	奈良時代・竪穴住居 1、土坑 2、陥し穴 1
	27	川半貝塚	山田町	5,000	7/1 ~ 10/23	町営災害公営住宅 大浦地区	縄文・近世	縄文前期～中期集落跡：竪穴住居 6、土坑 4、遺物包含層 1
	28	クク井	山田町	4,800	4/6 ~ 7/15	防災集団移転促進事業 船越 地区	縄文・古代	縄文前期集落跡：竪穴住居 7、土坑 29、鍛冶工房 5、鍛冶炉 1
	29	田屋	大槌町	1,800	7/27 ~ 9/4	三陸沿岸道路建設事業	縄文	土坑 2、埋設土器 1、土器集中部 1
	30	白石	大槌町	550	7/6 ~ 7/24	三陸沿岸道路建設事業	時期不明	溝跡 1
	31	赤浜 II	大槌町	3,445	4/6 ~ 7/31	土地区画整理事業 赤浜地区	縄文	縄文前期～後期集落跡：竪穴住居 48、焼土 32、炉跡 2、配石遺構 5、遺物包含層 2
	32	小白浜	釜石市	1,000	4/16 ~ 5/29	三陸沿岸道路建設事業	縄文	縄文中期集落跡：竪穴住居 5、焼土遺構 1、遺物包含層 1、土器埋設 2
	33	西和野 I	陸前高田市	12,775	4/7 ~ 5/8	土地区画整理事業 高台 IV	古代	土坑 8、周溝 1、柱穴 6
	34	高田城跡	陸前高田市	22,000	5/11 ~ 9/30	土地区画整理事業 高田西地区	中世～近世	中世～近世城館跡：曲輪 7、切岸 7、土壁 2
	35	盆花	盛岡市	910	7/2 ~ 8/7	宮古盛岡横断道路 区界道路	縄文	縄文後期集落跡：竪穴住居 4、埋設土器 1、土坑 17、焼土遺構 5
	36	新里愛宕裏	遠野市	2,400	9/1 ~ 11/13	東北横断自動車道路建設事業	縄文・古代	縄文中期～後期：土坑 18、陥し穴 5、柱穴状土坑 4
	計	34 遺跡		156,308				
	合計	36 遺跡		168,201				

平成 27 年度に注目された遺跡

仏像三体が刻まれた鏡像は日本最北の出土例

ひるばさわ
昼場沢遺跡（久慈市）・奈良～平安時代ほか

昼場沢遺跡は久慈市の夏井川と久慈川に挟まれ東に延びる丘陵の南側の中腹、標高約 30～40 m の地点に位置します。

今回の調査では、平安時代の竪穴住居 10 数棟が見つかっていますが、そのうちの 1 棟から、古代の「線刻阿弥陀三尊鏡像」が出土しました。鏡像とは鏡の鏡面に仏像を線刻したもので、今回出土した鏡は青銅製で、中央に阿弥陀如来、向かって右側に地蔵菩薩、左側に龍樹菩薩の姿が刻まれています。鏡の背面は瑞花（めでたい花）と向かい合う 2 羽の鳥（鳳凰）、唐草文が施され、「瑞花双鳳八稜鏡」と呼ばれる形式のものです。年代は 10 世紀後半～11 世紀前半と推測されます。古代の鏡像としては日本最北の出土例となります。鏡像は寺院跡などから出土することがほとんどであり、昼場沢遺跡または遺跡の周辺に古代の寺院跡が存在する可能性が出てきました。

今回の出土により、平安期に岩手県北沿岸地方に仏教文化が及んでいることが明らかとなりました。平安期の当地の信仰を知る事ができる貴重な資料といえます。

久慈市教育委員会 中野 敦夫



せんこくあみださんぞんきょうぞう
線刻阿弥陀三尊鏡像

工房跡から鉄製馬具など見つかる！

かわむかい
川向 I 遺跡（山田町）・奈良～平安時代

川向 I 遺跡は下閉伊郡山田町の大沢地区に位置し、山田湾を南東側に臨む標高約 25m の瘦尾根の上に立地しています。遺跡から西側へ約 1.6 km の地点には、房の沢古墳群や、沢田 I 遺跡など古代の遺跡が多く所在しています。

今回の調査の結果、縦 10 m × 横 6.5 m の工房跡を中心として、フラスコ状や小判型の土坑、鍛冶炉などの遺構が確認されました。また、これらの遺構内からは、鉄鋤・羽口・金床石・鉄塊系遺物といった遺物が出土しました。このことから、遺跡内で鉄製品を生産していたと考えられます。

特筆すべき点として、工房跡の床面から、鏡板や捩り二条線引手といった轡の一部とみられる鉄製馬具が出土しました。この鉄製馬具と同形態のものが房の沢古墳群から出土しており、遺跡同士の関係を示す手がかりとなる可能

性があります。また、この鉄製馬具の出土状況から、工房跡の操業時期は 7～8 世紀頃である可能性が高く、当時の沿岸部での鉄製品の実態を解明するうえで、貴重な資料を得ることができました。

山田町教育委員会 小野寺 純也



工房跡から出土した鏡板

無量光院以前の築地塀を発見！

むりょうこういん
無量光院跡（平泉町）・12世紀

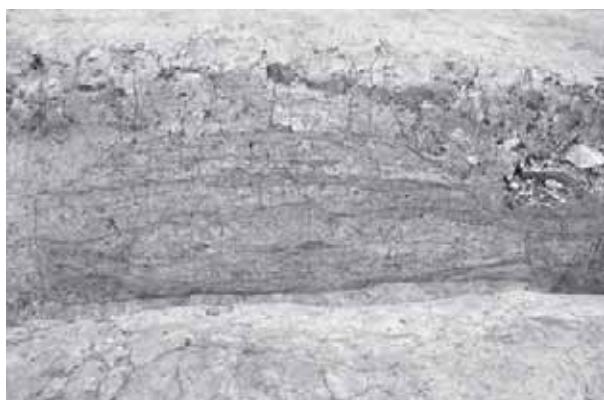
無量光院跡は12世紀に平泉を拠点とした奥州藤原氏三代秀衡が建立した寺院です。今回敷地の東端にある土壘とその外側の平坦部の調査を行ったところ、無量光院造営以前と考えられる12世紀の築地塀が見つかりました。

築地塀は土を水平に何層も搗き固めて造る構造の土壘です。岩手県内では志波城・胆沢城などの城柵や、安倍氏によって建てられた寺院と考えられている長者ヶ原廃寺跡で確認されています。

見つかった築地塀は、無量光院跡を造る際に壊されていて高さは60cm程しか残っていませんでしたが、南北方向に長さ6.5m、幅1.72m程あり、黄色と茶色の土が交互に積まれていました。また、塀を造る際に使った枠の跡（添柱）と考えられる径30～40cmの柱穴が塀の両脇で1.3m間隔で見つかっています。

今回見つかった12世紀の築地塀は、無量光院造営以前にも寺院等の重要施設があったことを示しています。

平泉町教育委員会 島原 弘征



ついじべい
見つかった築地塀の断面

4000年前の貯蔵穴群

こしだまつながねⅠ
越田松長根Ⅰ遺跡（宮古市）・縄文時代

越田松長根Ⅰ遺跡は、田老地区の市街地北側の丘陵にあります。海岸からは直線で約800mほどの距離に遺跡はあります。発掘調査は市道整備により昨年3月から調査を行い、8月に調査を終えました。

調査の結果、約4,000年前の縄文時代中期の集落跡が見つかりました。住まいとした竪穴住居跡は19棟、食糧を蓄えたと考えられる貯蔵穴は80基見つかりました。縄文土器や石器も数多く出土しました。竪穴住居跡は南向きの日当たりのいい場所にあり、貯蔵穴は湿気が少ない小高い場所で見つかりました。竪穴住居跡は重なりあって見つかりました。建て替えをして永く住んでおり、住みよい場所であったためと考えられます。80基ある貯蔵穴は、すべて同じ時期に使われていたわけではありません。貯蔵穴が壊れたりして使えなくなったりしたとき、また新たに貯蔵穴をつくり使っていたものと考えられます。

山に囲まれ海にも近いこの地には、海と山の豊かな恵みが昔からあったことを遺跡は伝えています。

宮古市教育委員会 安原 誠



貯蔵穴群の調査の様子

特集

奈良時代にさかのぼる沿岸製鉄史

古代の沿岸で鉄づくり

釜石市の橋野鉄鉱山が世界遺産に登録された記憶も新しい、岩手県沿岸部の製鉄。東日本大震災の復興関連に伴う発掘で、近代だけでなく古代（8世紀後半）から中世（15世紀）のものと見られる製鉄炉や鉄製遺物などが多く見つかり、岩手県の製鉄の歴史が明らかになってきました。



蝦夷の製鉄跡

岩手県では、沿岸部を中心に平安時代以降の製鉄遺跡が多く見つかりました。東日本大震災後の復興工事に先駆け沿岸部で本格的な調査が始まると、奈良時代に製鉄を行っていたと考えられる遺跡が発見されました。

山田町間木戸V遺跡では、8世紀後半・奈良時代の土器とともに製鉄の跡が発見されました。この頃、沿岸一帯には広く蝦夷と呼ばれる人たちが暮らしていました。蝦夷の人々は、当時の中央権力である朝廷の勢力圏外において、独自に生活を営んでいたといわれます。間木戸V遺跡の製鉄跡は、朝廷の権力が及ぶ志波城などが造られる前から、蝦夷が鉄を生産していた場所なのです。



山田町間木戸V遺跡で発見された製鉄炉の遺構



古代の製鉄方法

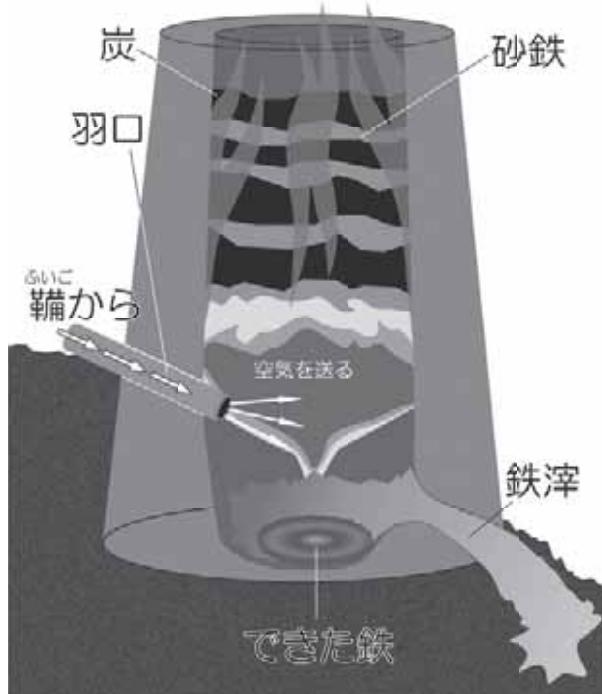
ではなぜ鉄を作る施設だとわかるのでしょうか。それは、製鉄炉の跡と思われる青灰色に還元された炉跡が見つかり、その周辺で製鉄炉内に風を送る「羽口」と呼ばれる土製の管や、砂鉄から鉄を取り出す際に出る「鉄滓」という残りカスなどが多量に発見されたからです。

当時の製鉄方法を見てみましょう。

原材料となる砂鉄は、鉄と酸素が結びついた酸化鉄の状態です。鉄を作るには、酸素を取り除く還元という作業を行わなければなりません。

図のような炉を粘土で作り、中には木炭を積みました。下から火を焚き、羽口からフイゴ（空気ポンプ）を使って風を送り込み、炉内の温度が高くなったところで砂鉄を投入します。高温と木炭から発生した一酸化炭素で砂鉄から酸素を分離させて、鉄を取り出すのです。この時、炉壁の土に含まれるケイ素も重要な役割を果たしました。ケイ素は鉄より低い温度で溶け、砂鉄の酸素を分離する働きを助けています。不純物とともにドロドロに溶けたカスは、羽口を塞がないように炉から流して排出します。この排出さ

○古代製鉄炉の仕組み



れたカスが鉄滓です。酸素や不純物を取り除かれた鉄は、羽口の先端付近で徐々に大きな塊となっていきます。できあがった鉄を取り出すには炉を壊さなければならず、炉の上部が残った姿で発見されることは滅多にありません。

このような製鉄技術を一般的に「たたら」と呼び、近世になると西日本や南部藩でも盛んに行われます。古代に沿岸部で営まれていた製鉄法は、近世の「たたら」とは炭窯やフイゴなどのスタイルが違っていたので、どのような経緯で蝦夷の人たちが製鉄技術を得たかはまだ明らかになっていません。



宮古市松山館跡で出土した羽口。炉内部に挿入されていた部分が熱で変色しています



沿岸に豊富な砂鉄あり

間木戸V遺跡以外にも山田町焼山遺跡や同町沢田III遺跡、大槌町田屋遺跡など、沿岸各地の遺跡で古代の製鉄跡が発見されており、沿岸部で盛んに鉄を生産していたことがうかがえます。

どうして沿岸部で製鉄が多く行われたのでしょうか。

先に述べたとおり、この時代の製鉄には木炭と砂鉄が必要です。北上山地には木炭の原料となる木材に加え、砂鉄を含む花崗岩が豊富にあります。長い年月に風化した花崗岩は、風や川によって海に運ばれ海岸に流れ着き、大量の砂鉄を含む砂浜を形成しました。北上山地南側の気仙地方はじめ宮古市や山田町を中心に県内各地の海岸で、当時は容易に砂鉄が手に入ったことが大きな理由だと考えられています。

こうしてつくられた鉄は、鋤や鉄斧、鎌などの農工具や漁具、そして武器などの鉄製品に生まれ変わりました。岩手県内で多くの発見例があり、本誌名『わらびて』の由来にもなった



山田町焼山遺跡の製鉄炉跡に残っていた鉄滓。流れ出て固まった様子がわかります

「蕨手刀」。蝦夷の有力者が手にしていたこの刀の製造にも、沿岸部で生産された鉄を用いた可能性がありますが、はっきりとした証拠はまだ見つかっていません。

8世紀後半に始まった沿岸部での製鉄は、中世から近世にかけて大量生産の方向に技術改良され、南部鉄器の産地として花開き、近代製鉄の起点となる世界遺産・橋野高炉まで、岩手県沿岸部の製鉄史は連綿と受け継がれています。



宮古市荷竹日影II遺跡で発掘された、古代の鉄鎌（鉄の矢じり）など

平成27年度

イベントの報告

こんなことやりました！

一般向け

体験教室 夏休み！みんなで考古学者 2015

平成 27 年 7 月 29 日（水）と 30 日（木）の 2 日間、埋蔵文化財センターで考古学の仕事を楽しく学べる体験教室を開催しました。とても暑い日が続きましたが、両日で過去最高 438 名の方々が来場されました。参加した子供たちは、本物の土器や石器、発掘の道具に触れて目を輝かせていました。

来年度も、同じ頃に開催予定です。



のパ
本物
かづ
か
な
る！
どん
な形
使っ
た立
なる体

平成27年度 岩手県文化振興事業団プレゼンツ 文化・芸術が集うとき in 九戸村 第36回 埋蔵文化財展

平成 27 年 10 月 30 日（金）～ 11 月 1 日（日）までの 3 日間、九戸村公民館で開催した埋蔵文化財展では、九戸村で発掘調査した遺跡の出土品を中心とした展示を行いました。「九戸村産業・芸術文化まつり」と共同開催だったこともあり非常に多くの方にぎわい、皆さん興味深げに見学されていました。

来年度も県内市町村で開催の予定ですので、ぜひご来場ください。



熱心に聞き入る皆さんに、
調査員の解説も力が入る！

埋蔵文化財や岩手の遺跡を知るきっかけに 埋蔵文化財公開講座・遺跡報告会

岩手県民会館で平成 28 年 2 月 6 日（土）に開催した埋蔵文化財公開講座。今回は「縄文人の生と死－女性・子ども・老人－」というテーマで、国立歴史民俗博物館教授の山田康弘先生に講演していただきました。

また、同時開催の遺跡報告会では、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる発掘調査から、次の 5 遺跡について報告しました。

- 石崎Ⅱ遺跡（山田町）縄文時代中期の大集落
- 赤浜Ⅱ遺跡（大槌町）海を臨む縄文集落
- 乙部野Ⅱ遺跡（宮古市）縄文時代と
弥生時代初頭の集落
- 中村遺跡（北上市）北上川に面した奈良・
平安時代の大集落
- 伏津館跡（野田村）室町時代（15世紀）
の城館跡

これらの催しは、来年度も同じ頃に開催する予定です。詳細が決まり次第、当センターのホームページや博物館等に展示するポスターでご確認いただけます。



入ったとても興味を引いた熱れの
講演が行われました

発行 岩手県立埋蔵文化財センター
編集 (公財) 岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター
〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11-185
電話 019-638-9001
U R L <http://www.iwate-maibun.jp/>
E-mail i-maibun@echna.ne.jp
発行日 平成 28 年 2 月 29 日
印刷 河北印刷株式会社